



42 神楽笛 千歳 1管

鎌倉時代(14世紀)
45.9×2.8



伝来によれば、後醍醐天皇の笛の師範を務めた山井(大神)景光(1272～1354)所持の神楽笛である。『振吟要録』に「太笛名物」として「千歳 大神景光所持、而彼子孫伝来之處、近来彦根中将直亮朝臣井伊得之、後献公物」と記載されるものと同一と考えられる。彦根藩第12代藩主、井伊直亮(1794～1850)は雅楽に親しみ、古楽器の収集に努めた。その目録を自ら記した『楽器類留』に「千銘神笛」と記載されるものが本作に一致する。元治元年(1864)4月、井伊直憲(1848～1902)より裏辻公愛(1821～82)を介して献上された。笛筒は黒漆塗で、「千歳」の文字が金高蒔絵で表される。袋は紅地四ツ花菱文綾に花唐草の刺繍が施されたもの。いずれも江戸後期に調えられたものと考えられる。



43 神楽笛 佐々波 1管

江戸時代(19世紀)
44.7×2.9



御在来の品。筒は金地に菊文散らし蒔絵。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

雅楽―伝統とその意匠美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 37

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十七年四月十六日発行

©2005, The Museum of the Imperial Collections